

私の未来は、私が守る。

HPVワクチンとは

子宮けいがんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンは予防効果が高く、定期接種年代(小6~高1)の接種において約90%の予防効果が報告されています。

HPVワクチンは「子宮けいがん」から私を守る 未来への大切な一歩!

HPVワクチン 定期接種 **無料**

もっと詳しく
知りたい方はこちら↓



9価
HPVワクチンの
一般的な
接種スケジュール

HPVワクチン定期接種は遅くとも高1の9月までに!

定期無料接種対象者：小学校6年生～高校1年生相当の女子

15歳になるまでに
1回目の接種を受ける場合



15歳になってから
1回目の接種を受ける場合



高1の9月を過ぎると、定期接種の期間内に完了できない可能性があります

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

出典：厚生労働省HPより

子宮頸がんはワクチンで予防することができます

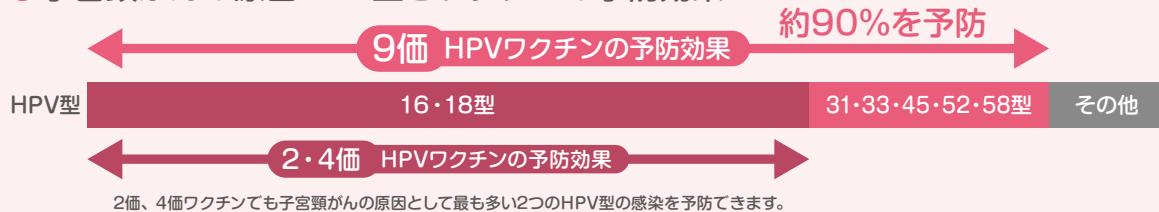
● 9価ワクチンの接種で子宮頸がんの9割以上を予防できます

子宮頸がんは、HPVワクチンの接種により予防することができます。
他のワクチンと同じように安全性と有効性が認められています。

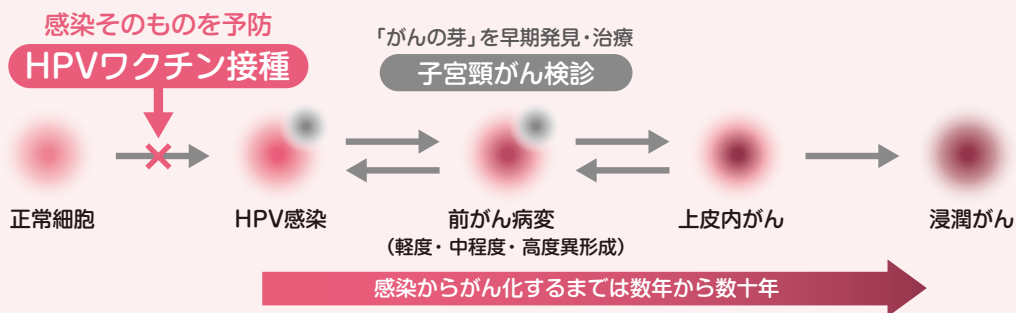
2023年度から開始された「9価HPVワクチン」はすでに世界中の国と地域で承認されており、子宮頸がんの原因となるHPV型の9割近くの感染を予防できます。



● 子宮頸がんの原因HPV型とワクチンの予防効果



● 子宮頸がんの進行とHPVワクチン接種の予防効果



● HPVワクチン接種後のリスクについて

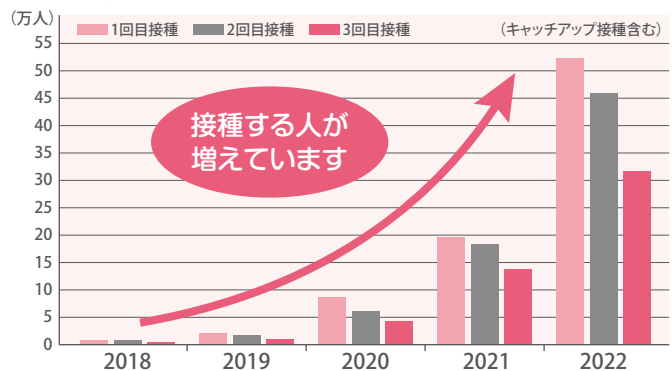
HPVワクチンの接種にも他のワクチンと同様に注射部位の痛み・腫れなどがみられることがあり、まれにアレルギー反応が起こる事があります。また、まれに広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動などの多様な症状（機能的な身体症状）が報告されましたが、ワクチン接種との因果関係については証明されていません。副反応と思われる症状がみられる場合は、まずは接種医（かかりつけ医）にご相談ください。



万一副反応が起こった場合の
愛知県内の相談窓口や医療機関情報

● 日本でも年々、HPVワクチンを接種する人が増えています

● 近年のHPVワクチン定期接種被接種者数



第94回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第5回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）資料
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00061.html

男性へのHPVワクチン接種について

男性もHPVに感染します。中咽頭がんや肛門がん、尖圭コンジローマなどの原因となります。

男性がHPVワクチンを接種することにより、これらの病気の予防効果が期待できます。

さらに男性がワクチン接種をすることで女性への感染を防ぐことができ、子宮頸がんの予防にもつながります。現在、男性へのHPVワクチン接種は4価HPVワクチンのみが承認されており、全額自己負担となります。（3回接種で約5万円）